

メッセージ:あなたは信じられますか?

OIC の皆様おはようございます。
ようこそ天の父なる神の家へ来られました。

今回のメッセージで、ヨシュア記の続きを「あなたは信じられますか?」というタイトルでお話します。
「はい。」「信じ、信頼することが信仰を築きます。」

「神様の御名の上にある神様の御言葉」というタイトルの次の言葉で私は前回のメッセージを締めくくりました。

父なる神様と神様の御子の関係に私達が不思議に感じることはなんでも、すべては宇宙全体に明確にされるでしょう。これは使徒パウロが<コリント人への手紙 I 15.章 23 節-28 節>に書いています。

<コリント人への手紙 I 15.章 23 節-28 節>

23 ただし、その順番があります。最初にキリストが復活なさいました。次に、キリストが帰って来られる時に、キリストに属する全員が復活します。

24 そのあとで、終わりが来ます。その時、キリストはあらゆる敵を滅ぼし、この世界を父なる神にお渡しになります。

25 王としてキリストが支配なさるのは、敵を全滅させる時までだからです。

26 その敵の中には、究極の敵である死も入っています。死もまた滅ぼされなければならないのです。

27 というのは、キリストには、すべてのものを支配する権威が、父なる神から授けられているからです。ただ、すべてのものと言っても、この支配権をお授けになった父なる神だけは、もちろんキリストの支配下に含まれません。

28 キリストはあらゆる敵との戦いに勝利を収めると、神の子として、ご自分を父なる神の支配におゆだねになります。それは、子にすべてを征服する力をお授けになった神様が、最高の存在となられるためです。

はい、聖書はどこにでもすべてのことを記載しています！そして、そうあるべきです！私たちがイエス様の牧場にいる選ばれた羊であることを喜びましょう。

今朝、私たちはヨシュアとイスラエルを追って、まるで台風の中を進む帆船のように、さらに未知の海へと入っていきます！約束の地にいる民を征服するため、罪人を根絶し、この地から罪を取り除くために前進しているからです。

神様の根絶する権利

神様は異教の文化と社会の根絶をカナンの地に限定していたことに留意していただきたいです。クリスチャンの中には、神様が人間を根絶する権利を疑問視する方もおられます。おそらく、いくつかの聖書の箇所がその疑問の答えの助けになるでしょう。

1. 人間は神様の創造物であり、創造する権利も根絶する権利も神様だけが持っておられます。<創世記 6 章 5 節-8 節>を見てみましょう。

<創世記 6 章 5 節-8 節>

5 主は、人々の悪が目にも余るほどひどく、ますます悪くなっていく一方なのを知って、

6 人間を造ったことを後悔し、心を痛めました。

7 「せっかく創造した人間だが、こうなった以上は一人残らず滅ぼすしかあるまい。人間ばかりでなく、動物も、地をはうものも、それから鳥も。いっそも造らなければよかった。」

8 しかし、ノアは別でした。彼だけは主に喜ばれる生き方をしていたのです。ノアの物語を話しましょう。

質問: もし神様が人間の邪悪さのために、人間や動物などすべての生き物を滅ぼされたとしても、神様はなお聖なる存在であられ、義なる咎なき存在であり続けられるのではないのでしょうか？ クリスチアンの答えは、大胆な「はい」でなければなりません！ それは神様の憐れみであられ、神様の憐れみのみが、神様からの身に余る寵愛を受ける1人の男性、ノアを探し出したのです。まるであの日、私たち全員がノアの箱舟に乗せられたかのように.....人類は神様の憐れみによって続いてきました。

2. 神様以外の誰が生と死を決定する力を持つべきでしょうか？ 神様はこれらの権利を＜申命記 32 章 39 節-40 節＞で宣言しておられます。

＜申命記 32 章 39 節-40 節＞

39 どうだ、よくわかったか。ほんとうの神はわたしだけなのだ。殺すも生かすも、傷つけるのも癒やすのも、思いのまま。わたしの手から救い出せる者はいない。

40・41 手を天に差し伸べ、わたしの存在をかけて誓おう。きらめく剣をとぎすまし、敵に刑罰を下す。

私達が神様は誰を、どのように殺されるかを問うとき、私たちは実は、私以外に神様がおられると言っているのです。

3. 神様のご計画 -地球と人類を救う働き

2025 年 8 月 3 日の私のメッセージ「神様の御名の上にある神様の御言葉」の中で、私は「神様は異教文化と社会の根絶をカナンの地に限定していたことに留意してください。」と述べました。イスラエルは神様から、すべての罪深い人類に宣戦布告するように命じられませんでした。神様の意図は、人類を聖なる民イスラエルに引き寄せ、救いをすべての国々に広げていくことでした。もし神様の民が聖さという神様の御性質を示さなければ、人類はこの世に何の希望も持てませんでした。他国は創造主との関係を取り戻すことに何も魅力を感じないでしょう。神様のご計画は、これまでも、そしてこれからも、世界のすべての国と民族の救いの働きです。

さて...。大洪水の前人類を根絶させる神様の権利は、ノアを通して、神様は人類に憐れみを選ばれたことを思い出してください。その後の歴史でイスラエルは異教の邪悪な社会と密接に生きていくとイスラエルの弱さが神様に示されました。カナンの罪を取り除くか取り去り、古代世界に救いを与える唯一の方法は、カナンの罪人を取り除くことでした。

4. 神様の選択権

＜ローマ人への手紙 9 章 14 節-16 節＞

14 では、神は不公平なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。

15 神はモーセにこう言われました。「わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」（出エジプト 33・19）

16 したがって、神の祝福は、だれかがそれを得ようと決心したからとか、そのために努力したからといって与えられるものではありません。それは、神のあわれみによって与えられるもののなのです。

5. アブラハムがソドムにいる叔父のために神様に嘆願

＜創世記 18 章 25 節＞

だとしたら、正義はどこにあるのでしょうか。悪人も正しい人もいっしょに殺してしまうなどということを、あなたがなさるはずはありません。もしも、もしもそんなことをされるなら、正しい人も悪人も全く同じ扱いをされることになってしまいます。あなたは決してそんなことはなさらないでしょう。全地をさばかれる方は、公平でなければならぬのですから。

神様の御子イエス様の血潮によって救われた罪深い人間が、どうして屋根の上から宣言できないのでしょうか。「全地をさばかれる方は、公平でなければならぬのですから。」

では、ヨシュアの次の戦いを見てみましょう。神様はギブオン人を守るために聖なる御言葉を与えられました。このことがヨシュアの戦いの計画をどのように複雑にしているのか見ましょう。

＜ヨシュア記 10 章 1 節-2 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 10 章 1 節-2 節＞

1 エルサレムの王アドニ・ツェデクは、ヨシュアがエリコ同様アイを占領して破壊し、その王を殺害したことや、ギブオンの住民がイスラエルと和平交渉を行い、同盟を結んだことなどを聞いて、
2 非常に恐れました。それは、ギブオンが実質的には王国の都のようであり、アイよりも大きく、その男たちはみな勇士だったからです。

では、一見弱々しくおとなしそうなギブオン人が、ヨシュアを狡猾に欺いて和平条約を結ばせただけでなく、強大な戦士の町でもあったことがわかります。だから、カナン地方の王たちはヨシュアだけでなく、ギブオン人も恐れました。

＜ヨシュア記 10 章 3 節-6 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 10 章 3 節-6 節＞

3 そこでアドニ・ツェデク王は、ヘブロン王ホハム、ヤルムテ王ピルアム、ラキシユ王ヤフィア、エグロン王デビルに使者を送り、
4 こう伝えました。「さあ、ギブオンを滅ぼすために手を貸してくれ。彼らはヨシュアやイスラエル人どもと和を講じたからだ。」
5 それで五人のエモリ人の王は、連合軍を編成してギブオンを攻撃しました。
6 ギブオンの人々は急いで、ギルガルにいるヨシュアのもとへ伝令を走らせました。「しもべどもをお助けください。少しでも早く援軍を出してください。山地のエモリ人の王たちが連合して攻めて来ます。」

人間の理性だけでは、これがヨシュアの逃げ道と思えるでしょう。つまり、カナンの王たちに、約束の地の異教徒であるギブオン族を絶滅させることです。しかし、実際は違います。神様は御言葉をお与えになり、その誓いを御名とこれまでの命令よりも高く掲げられました。この神様の御言葉こそ、ヨシュア、あるいは本当の神様とギブオン人との間に結ばれた和平条約でした。そして、神様はヨシュアにギブオン人を守るように指示します。

そこでヨシュアは、神様の指示に従って進軍します。わたしたちはこのことを＜ヨシュア記 10 章 7 節-8 節＞に見ます。

＜ヨシュア記 10 章 7 節-8 節＞

7 そこでヨシュアはイスラエル軍を率いてギルガルを立ち、救援に向かいました。
8 主はヨシュアに語りました。「恐れることはない。わたしは、彼らをあなたの手へ渡した。一人としてあなたに立ち向かえる者はいない。」”

この旧約聖書の歴史について、新約聖書の今日のクリスチャンに適用される 5 つの重要なポイントを挙げます。

1. 従順 - ヨシュアは神様に従い、戦場でギブオン人を守りました。クリスチャンはイエス様に命じられています。

＜マタイの福音書 28 章 19 節＞

だから、出て行って、すべての人々をわたしの弟子とし、彼らに、父と子と聖霊との名によってバプテスマ(洗礼)を授けなさい。

2. **恐れない** - ヨシュアは5人の王の軍勢を恐れずに攻撃しました。＜マタイの福音書 28 章 20 節＞でイエス様が言われているように、クリスチャンは神様の御子イエス様がいつも共にいてくださいます。

＜マタイの福音書 28 章 20 節＞

また、弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。わたしは世界の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。

3. **勝利の贈り物** - 神様はヨシュアに勝利を約束されました。また、＜ローマ人への手紙 8 章 37 節-38 節＞で神様はクリスチャンに勝利を約束されました。

＜ローマ人への手紙 8 章 37 節-38 節＞

37しかし、こうした中にあっても私たちは、いのちを投げ出してまで私たちを愛してくださったキリストによって、圧倒的な罪からの勝利を得るのです。

38神の愛から私たちを引き離すことができるものは何一つない、と確信しています。死もいのちも、そんなことはできません。天使にもできません。地獄の全勢力が結集しても、神の愛から私たちを遠ざけることはできません。恐れも、不安も同様です。

4. **戦いの後、敵は誰も立っていない**

私たちの努力は、イエス様の地上における王国、すなわち教会を建設することです。

＜コリント人への手紙 I 15 章 58 節＞

愛する皆さん。このように将来の勝利は確実なのですから、しっかり立って、動揺することなく、いつも、主の働きに熱心に励みなさい。なぜなら、復活は確かであり、主のための働きが決してむだに終わらないことを、あなたがたは知っているからです。

5. **戦いの後の私たちの最終的な勝利**

＜テサロニケ人への手紙 I 4 章 16 節-17 節＞

16主は、大号令と、天使の長の声と、神の召集ラッパの響きと共に天から下って来られます。その時、まず最初に復活して主にお会いできるのは、すでにこの世を去っているクリスチャンです。

17それから、なお生きて地上に残っている私たちが、いっしょに雲に包まれて引き上げられ、空中で主とお会いするのです。そして、いつまでも主と共に過ごすことになります。

ヨシュアの圧倒的勝利

＜ヨシュア記 10 章 9 節-11 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 10 章 9 節-11 節＞

9 ヨシュアはギルガルから夜通し行軍して、敵軍を急襲しました。

10 主が敵を混乱に陥れたので、イスラエル軍はギブオンで彼らに大打撃を与え、逃げる者をベテ・ホロンとアゼカとマケダまで追って打ち倒しました。」

11 敵がベテ・ホロンの丘を下って敗走する時、主はアゼカへ至る道に大粒の雹を降らせ続けて、彼らを滅ぼしました。事実、イスラエル軍が剣で殺した者よりも、雹に打たれて死んだ者のほうが多かったのです。

イスラエルは神様から、すべての罪深い人類に宣戦布告するように命じられていませんでした。神様の意図は、救いのために人類を聖なる民イスラエルに引き寄せることでした。イスラエルはすべての国々に出て行くことになっていました。もし神様の民が神様の聖なる御性質を示さなかったら、人類はこの地上に何の希望もありませんでした。他の国々は、創造主との関係を取り戻すために惹かれるものが何もないでしょう。神様のご計画は、これまでも、そしてこれからも、世界のすべての国と民族に対する救いの働きです。神様は超自然的に、イスラエル兵が敵を剣で殺すことを可能にされました。多くの場合、イスラエル人は1

人も失われていませんでした。しかし、イスラエルが剣で成し遂げなかったことを、神様は神様の創造物によって超自然的に成し遂げられました。

<ヨシュア記 10 章 11 節>

11 敵がベテ・ホロンの丘を下って敗走する時、主はアゼカへ至る道に大粒の雹を降らせ続けて、彼らを滅ぼしました。事実、イスラエル軍が剣で殺した者よりも、雹に打たれて死んだ者のほうが多かったのです。

ヨシュアの勇敢な祈り - あなたは信じられますか？

<ヨシュア記 10 章 12 節-14 節>を読みます。

<ヨシュア記 10 章 12 節-14 節>

12 イスラエル軍が敵を追いつめた時のことです。ヨシュアは民の前で大声で祈りました。「太陽よ、ギブオンの上にとどまれ。月よ、アヤロンの谷から動くな。」

13 すると、太陽も月も、イスラエル軍が敵を全滅させるまで動かずにいました。この出来事は『ヤシャルの書』(イスラエルに古くから伝わる詩的文書)にくわしく記されています。太陽は丸一日、天にとどまっていました。

14 こんなことは、あとにも先にもありませんでした。この日、主は一人の人の祈りを聞き入れ、イスラエルのために戦ったのです。

あなたは信じられますか？

以下は、ヨシュアの命令で太陽が停止したことに関するいくつかの説やコメントです。

まず、神様は<ヨシュア記 10 章 3 節>でヨシュアがアモリ人の 5 人の王を倒す時間を増やすために、地球の動きを遅くされました。皆さんの牧師は、このことを神様の書かれた御言葉にある神様の超自然的な啓示のなかで具体的な生活に根ざした神学または小さな信仰と呼んでいます。

科学的事実: 1972 年、科学者たちは太陽や月、あるいは外部からの影響に依存しない「原子時計」を発明しました。それ以来、彼らは地球の自転が減速し続けるために失われた合計 27 秒を記録しています。

第二に、聖書のコメントには、神様が気圏上層部に水晶雲をいくつか作り、後に太陽の光を照らすようにしたことも含まれています。湿度の高い大阪の空ではよく見かけます。雲の中に小さな虹がかかっているように現れています。聖書は<ヨシュア記 10 章 13 節>で言っています。

<ヨシュア記 10 章 13 節>

13 すると、太陽も月も、イスラエル軍が敵を全滅させるまで動かずにいました。この出来事は『ヤシャルの書』(イスラエルに古くから伝わる詩的文書)にくわしく記されています。太陽は丸一日、天にとどまっていました。

科学のもう一つの記録

もし地球が止まっていたら、海は徐々に両極へと移動し、赤道直下の陸地が出現するでしょう。その結果、巨大な赤道直下のメガ大陸と 2 つの大きな極海が形成されることになります。(esri/ArcUser Magazine)。したがって、地球が自転しない日が 1 日あったとしても、世界的な大災害にはならないでしょう。神様は、両極に移動し始めた海さえも埋め合わせすることができました。しかし、科学的に言えば、神様はそうされる必要はなかったと私は信じています。神様はご自身の完全な御心を、自然な力と超自然的な力で成し遂げられます。

イスラエルの外で経験した自然での変化はなんでも、「神様を恐れる」という心を生み出したのかもしれませんが。もしかすると太陽が止まっているような変化を目の当たりにして、人は動揺し、創造主である神様に呼びかけたかもしれません。

全能の神様

私たちクリスチャンは、神様が全能であられると本当に信じているでしょうか？私たちは、神様が全能であられると言います。しかし、私たちはあまりにも頻繁に、神様の力に対する疑念と闘っています。御子イエス様とともに重力に逆らっておられる神様、また信仰を持った罪深い人間を見てみましょう。

神様の御子と一体になられる全能の神様ー イエス様は水の上を歩かれる

＜マタイの福音書 14 章 22 節-31 節＞を読みます。

＜マタイの福音書 14 章 22 節-31 節＞

22 このあとすぐ、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて向こう岸に向かわせ、また、群衆を解散させられました。

23 みんなを帰したあと、ただお一人になったイエスは、祈るために丘に登って行かれました。

24 一方、湖上は夕闇に包まれ、弟子たちは強い向かい風と大波に悩まされていました。

25 朝の四時ごろ、イエスが水の上を歩いて弟子たちのところに行かれると、

26 弟子たちは悲鳴をあげました。てっきり幽霊だと思ったのです。

27 しかし、すぐにイエスが、「わたしです。こわがらなくてよいのです」と声をおかけになったので、彼らはほっと胸をなでおろしました。

28 その時、ペテロが叫びました。「先生。もしほんとうにあなただったら、私に、水の上を歩いてここまで来いとおっしゃってください。」

29 「いいでしょう。来なさい。」言われるままに、ペテロは舟ベリをまたいで、水の上を歩き始めました。

30 ところが高波を見てこわくなり、沈みかけたので、大声で、「主よ。助けてください」と叫びました。

31 イエスはすぐに手を差し出してペテロを助け、「ああ、信仰の薄い人よ。なぜわたしを疑うのです」と言われました。

ペテロはイエス様を信頼していました。ペテロはイエス様に多くの信仰と愛を持っていました。もしそうでなければ、「先生。もしほんとうにあなただったら、私に、水の上を歩いてここまで来いとおっしゃってください。」という奇妙な依頼をイエス様にしなかったでしょう。だからペテロは、「もしあなたなら、私に水の上を歩くように命じてください、」と言いました。ペテロは、イエス様の命令を実現されるイエス様の力を信頼していました。ペテロは実際に水の上をイエス様に向かって歩くことに成功しました。

ペテロはボートから降りるとき、立ち止まって神学を分析することはしませんでした。ペテロはイエス様を信頼していました。「あなたは信じられますか?」「はい。信じて、信頼することが信仰を築きます。」

聖書はまた、イエス様は地球をその場所に留めておられると言っています。このことを知れば、地上で水の上を歩くことなど、イエス様の力を示す小さなことのように思えます。＜コロサイ人への手紙 1 章 15 節-17 節＞に、明らかにしています。

＜コロサイ人への手紙 1 章 15 節-17 節＞

15 キリストは、目には見えない神のかたちであり、神がすべてのものをお造りになる前からおられました。

16 事実、キリストはすべてのものの創造者なのです。天にあるものも地にあるものも、目に見えるものも見えないものも、霊の世界の王座も主権も支配も権威もすべて、この方がご自身の目的と栄光のために造られたのです。

17 キリストは他のすべてのものに先立って存在し、すべてのものは、キリストによって成り立っています。

16 節に

16 事実、キリストはすべてのものの創造者なのです。天にあるものも地にあるものも、目に見えるものも見えないものも、霊の世界の王座も主権も支配も権威もすべて、この方がご自身の目的と栄光のために造られたのです。

そして17 節に、

17 キリストは他のすべてのものに先立って存在し、すべてのものは、キリストによって成り立っています。

イエス様は宇宙全体を一定の状態にしておられます。すべての惑星は軌道にあり、すべての銀河は回転し、すべての星はその場所にあり、すべての海はその境界にあります。そうです。イエス様はまた、手のひらに海を握っておられます。つまり、ペテロはイエス様の手のひらに握られている水の上を歩いていました。もし大地や海がなかったとしても、ペテロの信仰がそれに対応できるのであれば、何の違いもなかったでしょう。

＜ヨブ記 38 章 31 節-32 節＞でヨブの正しい心を証明されようとされたとき、神様はヨブをへりくだらせました。

31 おまえは星を取り抑え、オリオン座やスバル座を引き止めることができるか。

32 四季の順序を正しく決め、牡牛座のすべての星を正しい軌道に導くことができるか。

それは、全能の神様とその御子、神様の言葉の力の聖書の宣言です。これは真実であり、＜ヨシュア記 10 章 13 節＞における神様の全能を否定して疑ったり、合理化したりすべきではありません。

＜ヨシュア記 10 章 13 節＞

13 すると、太陽も月も、イスラエル軍が敵を全滅させるまで動かずにいました。この出来事は『ヤシャルの書』（イスラエルに古くから伝わる詩的文書）にくわしく記されています。太陽は丸一日、天にとどまっていました。

私たちの神様は死人を生き返らせる - あなたは信じられますか？

神様がイエス様を死者の中からよみがえらせたと信じるようにならなければ、罪人はクリスチャンになることはできません。使徒パウロはこの事実を＜ローマ人への手紙 10 章 9 節＞で宣言しました。

＜ローマ人への手紙 10 章 9 節＞

なぜなら、もし自分の口で、「イエス・キリストは私の主です」と告白し、自分の心で、「神はイエス・キリストを死者の中から復活させてくださった」と信じるなら、あなたは救われるのです。

旧約聖書における神様の超自然的な啓示を信じることは、現代の私たちの信仰を励ますことにもなります。使徒パウロもまた、生と死を支配する神様の全能の力について、私たち全員がいかに自然に感じるべきかを示しました。パウロはアグリッパ王の前で自身の命の裁判を受けていました。パウロはパリサイ人であり、ユダヤ人であった自分の人生を用いてイエス様の福音を説いていました。パウロは、アグリッパがユダヤ教の訓練を受け、イエス様の聖職と十字架刑について最新の知識を持っていることを知っていました。＜使徒の働き 26 章 6 節-8 節＞で、パウロが王の宮廷で冷静にこう言ったことが思い浮かびます。

＜使徒の働き 26 章 6 節-8 節＞

6 しかし彼らが訴えたいのは、そんなことはありません。私が、先祖に与えられた約束の実現を待ち望んでいることが、彼らの気に入らないのです。

7 イスラエルの十二の部族は、私と同じ希望をいだいて昼も夜も神に仕えてきました。王よ。それなのに、私だけ罪に問われるとは理にかないません。

8 死者の復活を信じるのが犯罪でしょうか。神が人間を復活させることは、そんなに信じがたいことでしょうか。

神様は宇宙を言葉によって、存在させました。神様は星をそれぞれの場所に投げ入れられました。神様は生命を創造されました。そのようなすばらしい神様が死者をよみがえらすことができないはずがありません。

太陽を止める出来事 - 神様の偉大な奇跡のひとつ

私のメッセージを締めくくるために、＜ヨシュア記 10 章 15 節＞を読みます。

＜ヨシュア記 10 章 15 節＞

15 そののち、ヨシュアとイスラエル軍は、ギルガルの陣営に引き揚げました。

その夜、ギルガルで夕食をとりながらテーブルで話したことを想像できるでしょうか。全知全能の父なる神様と、その選ばれた民を支え戦う全能の神様の力が、唯一のトピックだった、と私は思っています。神様は次に何をなさるのだろうか、彼らは互いに尋ね合ったに違いありません。

イエス・キリストに選ばれた神様の民である私たちはどうでしょうか？私たちは神様について好意的に語っているのでしょうか...あるいは、神様が私たちを支えてくださるためにされることを分かち合うことに重点を置いているのでしょうか？神様は日々、私たちを小さなことから大きなことまで非常にたくさん助けてくださいます。神様が私たちを助けてくださった最も偉大な方法を毎日続けておられます。神様が単に太陽を止められたことよりもはるかに大きいことです。イエス様を死からよみがえらせることに比べれば、太陽を止めることなど小さなことではないでしょうか。

神様の偉大な奇跡 - イエス様の十字架と死からの復活

神様は、＜ローマ人への手紙 4 章 22 節-25 節＞に書かれているように、イエス様を墓からよみがえらせるとき、私たちの罪のためのイエス様の犠牲を受け入れられたことを認め、明らかにされました。

＜ローマ人への手紙 4 章 22 節-25 節＞

22 この信仰のゆえに、神は彼を義と認められたのです。

23 しかし、「彼は信仰によって神に義と認められた」と書かれたのは、ただアブラハムのためだけでなく、24 私たちのためでもあったのです。それは、主イエスを死者の中から復活させた神の救いの約束を信じるなら、アブラハムと同様に、神は私たちも受け入れてくださることを保証しています。

25 主イエスは、私たちの罪のために死なれました。そして、私たちを神との正しい関係に入れ、神の恵みで満たすために復活なされたのです。

それゆえ、神様がイエス様を死者の中からよみがえらせたので、私たちは、神様が私たちの罪のためのキリストの犠牲を受け入れてくださったという確信を持つことができます。

そして、＜ローマ人への手紙 1 章 1 節-4 節＞に

＜ローマ人への手紙 1 章 1 節-4 節＞

1 キリスト・イエスに仕える者であり、伝道者として選ばれ、神の福音(キリストによる救いの知らせ)を伝えるために遣わされたパウロが、この手紙を送ります。

2 この福音は、神が預言者(神に託されたことばを語る人)を通して旧約聖書の中で約束しておられたもので、3 神のひとり子、主イエス・キリストに関するものです。この方は、人の子として、ダビデ王の家系にお生まれになりました。

4 しかも、死んでのち復活することにより、神のきよい性質を備えた、力ある神のひとり子であることが証明されたのです。

教会のみなさん、私たちは毎日語るための、今まで地球上で語られた最も偉大な奇跡を持っています。あなたは信じられますか？「はい。信じて、信頼することが信仰を築きます。」信じましょう。やってみましょう。

お祈りしましょう。